



▲頑丈なタイプのキャリーケース ▲折りたたみタイプのソフトキャリーケース ▲災害訓練の様子

避難用品の備え

災害が発生した際、避難所ではペットが生活できる環境は整っていません。そのため、避難所でもペットを飼育できるよう、必要な物資の備蓄を準備しておきましょう。

- 持病用の薬、サプリメント
- トイレシート
- トイレ用の砂
- ペットフードや水
- 賞味期限にも注意しよう！
- ケージの中で落ち着かせる為のタオルやシート

この他にも、飼い主の連絡先やペットのワクチン接種状況などたくさんものが考えられます。優先順位を考え、最低限の備蓄を持ち出せるよう整理しておきましょう。

★地域との関わり

避難所のペットの受け入れは、避難所ごとの判断に任せられています。まずは、最寄の避難所で、ペットの受け入れについて検討を行うなど、ペットの避難場所を確保しましょう。地域で行われる災害対策の会合や避難訓練に参加し、ペットを連れての避難について話し合っておくことも良いでしょう。

住民同士が助け合い、自然にペットも一緒に避難できた避難所の例もあるそうです。避難所でペットを受け入れやすくしてもらうためには、地域のコミュニティの一員として、普段からの飼い主の行いが最も大事だと考えます。平時でもペットの鳴き声やふん尿に関する苦情は多く、ペット嫌いの原因になっています。猫は室内で飼育することで、ふん尿の苦情や不要な繁殖を抑えることに

つながります。また、犬のふんは飼い主の責任で持って帰り、マーキング等は水で流すなどして、地域の方に理解してもらえるよう努めましょう。

★しつけ・訓練について

被災時は、私たちと同様にペットも恐怖や不安を感じます。東日本大震災で震度4以上の揺れを体験したペットの飼い主へのアンケートでは、「震災後1カ月間、ペットに関して困ったこと」の1位は、「ペットの不安が強く、安心させることが難しかった」(19%)でした。(アイリスペットとっとコム調査)

飼い主さんの恐怖や不安もペットに伝わりますし、飼い主さんと一緒にいられないためにストレスを感じることもあります。避難

所で少しでも落ち着いていられるように、普段からケージやクレート、キャリーバックで過ごすことに慣れる訓練をしておきましょう。毛布やバスタオル等でケージを覆い、暗くすることで、ペットがケージ内で吠えることを抑えることができます。なお、ケージやクレート、キャリーケースには、持ち運びに便利な折りたたみ式のものや、少々重いです種類や用途に合わせて選ぶと良いです。

この他にも、決められた場所でトイレをすることや、リードに慣れさせることも必要です。なお、伸縮ができるフリーリードは避難所での制御が難しくなるため、避けたほうが良いでしょう。急に環境が変化しても、普段と変わらない生活が送れるように、日頃から様々な環境で練習し、一定のルールの中で過ごす経験をさせることも重要です。

★他にもできることは？

飼い主が災害に対する備えとしてできることは他にもあります。①病気の流行を防ぐうえで必要な予防接種やノミなどの駆除②離れ離れになったときにも再会できるように迷子札やマイクロチップの装着③他の動物とのトラブルを防止する避妊・去勢手術などです。また、避妊・去勢手術は、不幸にも飼い主とはぐれてしまった際にも、野良犬や野良猫が繁殖する事態を未然に防ぐことにも

被災時の 京都動物愛護センターについて

災害の発生時は、飼い主とはぐれてしまった犬猫が徘徊したり、怪我や病気になる危険性があります。京都動物愛護センターでは、飼い主とはぐれた動物を保護し、疾病のある動物について、できる限りの治療を行います。また、被災動物用の食料や動物医薬品等の救援物資の保管配布の拠点となる予定です。

京都夜間動物救急センター

センターでこんなことやっています！

ペットの救急処置に対応しています

- オープンから半年 「大切な家族であるペットの夜間に発生した事故や病気に対する救急処置を行うことで、ひとつでも多くの命を救いたい」。その熱い思いが実り、公益社団法人京都市獣医師会の運営する京都夜間動物救急センター(以下、「夜間救急センター」と言う。)が、平成27年5月20日にオープンしました。半年がたった今、井葉野義弘副会長にお話を聞きました。
- 最大限の治療を 「現在、京都市獣医師会に所属する獣医師を中心に約30名が交替で1日2名と専属の獣医療補助者2名が診察に当たっています。開設から半年で約500件診察しました。症状の多くは異物誤食、嘔吐、下痢な

証明できるもの(免許証、保険証など)

- まちなこ活動や被災時にも活用 夜間救急センターの施設は、昼間は京都市の動物愛護事業『まちなこ活動支援事業』の避妊・去勢手術等に活用しています。また、いざという時には『被災時救護事業』にも役割を果たすことになるでしょう。今後、さらに診療件数が多くなってきたら、常勤獣医師の確保や診察時間の延長などを考えていきたいです。
- 夜中にペットの具合が悪くなったら 突然、夜中にペットの具合が悪くなったら、まず夜間救急センターに電話をかけて、動物の種類、症状やかかりつけの病院などを伝えて下さい。診察を受けることになったら、次のものをご持参下さい。①現在投薬中の薬②最近行った血液検査や尿検査等の結果③便や尿、吐物など(症状がある場合)④誤飲時は残った分や同じもの、成分などがわかるもの⑤クレジットカード(お支払いはクレジットカードのみ)⑥身分を

京都夜間動物救急センター
〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
京都動物愛護センター内
TEL: 075-693-9912
HP: http://kyoto99.net
診療時間: PM 9:30~AM 2:00

ボランティアスタッフ チーム活動紹介

私たちこんなことしています

ボランティア 展示チーム

「展示チームは現在8人で活動しています。定期的に会議をして、センターのエントランスホールにある展示コーナーで展示物を作成しています。2015年の夏には京都市下京図書館でも展示をしました!! 私たちの活動の結果、センターだけではなく色々な場所で人と動物の共生を目指した展示物が展示されるのはとても嬉しいものです!

ボランティアは、シフトによって、来館者の対応をする「案内活動」と収容されている犬猫の世話をする「管理活動」をしています。それ以外に、希望によって参加するチーム活動を4つ設定しています。それぞれのチームで月1回程度の定例会を持ちながら、職員と一緒に活動を行っています。

展示コーナー紹介

現在は平成26年12月に制定された「京都動物愛護憲章」をテーマにした展示をしています。動物愛護憲章っていうけど一体何?文章だけではイマイチよく分からない...という方にも分かりやすい「おもいやり」のテーマに沿って、自分にとっての〇〇を葉に書いて、枝の周りに貼っていくというもので、現在は思いやりがテーマの「思いやりの木」になります。今後は、今貼ってある葉を残し、テーマによって葉の色を変えて重ねて貼っていく、大きな木へと育てていく予定です!」(noe)

展示チームから 展示は大きなパネルにイラストや文字を使って、時には参加をしてもらいながら表現できるのが魅力。動物を適正飼育するための情報を楽しめる展示パネルを通じて発信することで、人と共に生きる動物との関わり方を考えてもらうきっかけになるように、メンバーも学びながら楽しみながら活動しています。センターに来所した際は展示物も見てくださいね~!

▲会議中 ▲分かりやすく説明 ▲思いやりの木